

府中市健康地域づくり審議会
第8回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成26年8月27日（水） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階第1応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）
水 主 川 緑（分科会委員） 坂 永 弥 生（分科会委員）
藤 井 敬 子（分科会委員） 出 原 慎 之（分科会委員）
山 上 秀 樹（府中市教育委員会学校教育課）
河 村 久美子（府中市子育て支援センター）
古 川 教 子（府中市立上下保育所）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事
 - ①議題 新制度に向けて府中市が条例等で定める基準等について
 - ②議題 「府中市子ども・子育て支援事業計画」策定について
 - ③議題 施策の進捗状況について

【主な質疑・意見】

委員；地域型保育事業のそれぞれの特徴を教えてください。

事務局；これまで認可外だったものも含まれるが、新制度で財政支援するにあたり認可することになった事業である。家庭的保育事業とは、いわゆる保育ママで主に自宅で低年齢の子どもを預かる事業。小規模保育事業はA～Cの3つに分類されるが、A型はミニ保育所で基準は保育所に近いもの、C型はより家庭的保育に近い位置づけとなる事業で、B型はその中間のもの。事業所内保育事業は主に社員向けの福利厚生として整備されるもの。居宅訪問型保育事業は子どもの自宅に保育者が伺い保育を行うもので、ベビーシッターを少し専門的にしたものと考えていただければ。これらの地域型保育事業は待機児童の受け皿とするべく、認可事業となったものである。

委員；0～2歳の子どもは就労していないと施設に入れないのか。就労していない人は幼稚園にしか入れなくなるのか。

委員；保育の必要性の事由を「就労」に求める場合は、48時間以上の就労をしていることが原則となる。その他の理由で認定することはありうる。急激に制度を変えるわけではなく、府中市のこれまでのやり方を継続していく部分ももちろんある。10年間の経過措置により、下限時間未満の方も認定の対象とする予定だ。

委員；認定の事由にある病気や疾病の程度にはなにか基準があるのか。

事務局；現在、証明等をいただいているはいない。

委員；事由に「夜間の就労にも対応」とあるが、夜間の保育にも対応していくのか。

事務局；国は夜間の就労も事由として認めるものと設定しているが、本市では現在夜間保育は実施しておらず、今後も予定はしていない。

委員；同居の親族の有無が認定に影響してくるのか。以前、居宅内労働を理由に保育を利用できないことがあった。

事務局；同居の親族の有無が認定の事由となることはないが、利用の優先づけをする必要がある場合など調整する際の理由にはなりうる。

委員；集団保育を経験させたいという理由は、保育の必要性の事由には含まれないのか。

事務局；発達障がいがあるなどケースによって対応が変わってくると思うが、低年齢児ではそのような事由での認定は現実として難しい。

委員；3歳未満児で地域に子どもがいらないため集団保育を必要とする家庭や孤立しがちな家庭、家でもみるが保育所でもいろいろと経験させたい家庭にはどのように対応していくのか。

事務局；一時預かりや子育て支援センターなどその他のサービスで対応をしていく。

委員；1号と2号認定の見込み量が実績と乖離しているが、これは下限時間を厳密に運用した場合に見込まれる数であるのか。

事務局；そうである。

委員；量の見込みとは直接関係のない、その他のアンケート結果をまとめた資料はいただけないのか。

事務局；昨年度の会議で配布したが、今年度より出席いただいている委員の方にはお渡ししていなかったため、後日配布させていただく。平成27年度では、認定こども園の設置は考えておらず、現状の幼稚園・保育所の体制を維持していくことを想定しているが、今後の方針により確保の内容が変わってくることはありうる。

委員；0歳児保育の確保が難しいと言われているが、どのように対応していくのか。

事務局；育児休業制度が普及してくれば1歳児クラスのニーズが高まってくる。地域型保育事業も検討する必要がある。

委員；資料に「0歳児クラスは、経済環境の変化や保育環境の整備により、徐々に潜在的な需要が顕在化すると考える」とあるが、どういうことか。

事務局；入所できる保育所が整備されれば働きに出たいと考えている人などを想定している。人口推計では児童の数は減少すると見込んでいるが、こうした要因を鑑み上昇傾向で0歳の保育ニーズを見込んでいる。

委員；女子カフェの講師や人数等、詳細は決まっているのか。

事務局；1回目は「たまごは待ってけません」著者の原先生より講演をいただき、出産に関する知識を深めてもらう。2回目を人生設計に関する講演をファイナンシャル・プランナーにお願いする予定。3回目は臨床心理士に心のケアについてお話いただく予定だ。本市の女性プロジェクトチームで検討を進めており、恋しきで少人数形式で実施予定。

委員；企業へのフォーラムや啓発への取組みについても検討してほしい。

事務局；県では働く女性応援隊の立ち上げを行い、各自治体も入っている。企業への啓発は県とも連携して行っていく必要がある。分科会で議論いただいたことは、審議会にまとめて報告させていただくが、9月議会終了後に審議会の開催を予定している。

委員；府中市独自のカラーを出した計画にしていきたい。

(4) 事務連絡

(5) 閉会 分科会副会長あいさつ